

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START)
大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援

令和3年度補正予算評価結果

令和7年1月24日
国立研究開発法人科学技術振興機構

<目次>

1. 制度概要	2
2. 評価の目的	2
3. 評価の方法	2
4. 総合評価結果のランクと基準	2
5. 評価結果	3

<対象プラットフォーム名>

- ・北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)
- ・みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)
- ・Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI)
- ・Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)

1. 制度概要

本支援は、スタートアップ・エコシステム拠点都市において、GAPファンドの充実など事業化に向けた起業活動支援やそのための活動の場の整備等、大学等におけるスタートアップ創出機能の更なる強化を目的として、令和3年度第1次補正予算の「地域産学官連携科学技術振興事業費補助金」によって実施された。

2. 評価の目的

本評価では活動の実施状況や成果・課題を明らかにし、今後の成果の展開及び取組の改善に寄与することを目的とする。

3. 評価の概要

(1) 評価者

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援委員会

(2) 評価方法

報告書の査読及び面接(プレゼンテーションによるヒアリング・質疑応答)

(3) 評価の観点

プログラム実施項目である以下①～③について、それぞれ「ビジョン・目標に対する成果」「取組内容」「課題分析と今後の対応方針」の観点で評価した。

- ① 全体(総合)
- ② 起業活動支援プログラムの運営
- ③ 起業環境の整備

4. 総合評価のランクと基準

総合評価のランクと基準は、以下の通り。

総合評価 ランク	基準
S	特に優れた成果があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が特に期待できる。
A	十分な成果があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
B	一部不足があるが、概ね一定の成果があり、今後の改善努力によりスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
C	成果が不十分であり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展には相当の改善努力が必要である。

5. 評価結果

5-1	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)	……4 頁
5-2	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)	……5 頁
5-3	Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI)	……6 頁
5-4	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)	……7 頁

5-1 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)

プラットフォーム名	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)
主幹機関	北海道大学 【総括責任者】 総長 寶金 清博 【プログラム代表者】 副本部長・特任教授 小野 裕之
共同機関	小樽商科大学、室蘭工業大学、北見工業大学、公立はこだて未来大学、北海道情報大学、苫小牧工業高等専門学校、函館工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、北海道科学技術総合振興センター
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2023年 3月 31日

1. 活動概要 (HSFC の中間報告書より引用)

令和3年度補正予算事業においては、ファンドサイズ1億3,000万円のGAPファンドプログラムを実施し、17件の研究シーズを採択した。採択シーズの支援を通じて、支援内容のパッケージ化が出来た他、DemoDayの実施においては、VC・金融機関等から対面・オンライン計28社・245名の参加があり、シーズと資本のマッチング機会を創出できた。これらの活動により本採択シーズから計4社のスタートアップが生まれ、加えて今後2社が創業予定である。また、うち1社については、大型の資金調達を進めており、操業開始へ向けて順調にスケールしている。

2. 評価結果.

総合評価:B

3. 総合評価結果

GAPファンドプログラムの運営は適切に行われており、エントリー件数、採択数も順調に推移している。特に、高等専門学校からのGAPファンド採択実績は他のプラットフォームへの刺激になると考える。

一方で、課題先進地域を表明する中、地域課題の解決を目指した採択案件が見えなかった。今後、北海道という土地柄、地域性の観点で特徴を出したプログラム運用も検討する必要があるだろう。今回の補正予算とその後の基金事業の中で、プラットフォームとしてどのような案件を育てていくか、という点に目を向けるべき時期に来ている。次の成功事例につながるように、今後具体的にどのようなシーズを発掘し、どのように育てていくのかにフォーカスし、取り組んでほしい。

5-2 みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)

プラットフォーム名	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)
主幹機関	東北大学 【総括責任者】 理事 遠山 毅 【プログラム代表者】 副学長、未来科学技術共同研究センター長 湯上 浩雄
共同機関	弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2023年 3月 31日

1. 活動概要 (MASP の中間報告書より引用)

①起業活動支援は、ベンチャー創出に向けた起爆剤機能として活用し、令和3年度実施のみちのくGAP ファンドの採択数・支援額を大幅に増やし、通常枠@約 500 万円×27 件、特別枠@約 2,000 万円×2 件を採択した。また、伴走型支援として、チームビルド人材プログラムと創業 CxO 発掘プロジェクトを追加で実施した。さらに成果発表会として、みちのく DEMODAY(@仙台)を単独開催し、TOHOKU STARTUP NIGHT(@東京)を仙台市と共催した。結果として現時点で2件(2社)が起業に至った。③起業環境整備では、試作のためのプロトタイプデザイン教育研修のプログラムを新規に開発した。

2. 評価結果.

総合評価:A

3. 総合評価結果

シーズの発掘や審査員の多様化への取り組みが認められ、GAP ファンドの審査も適切であったといえる。採択課題として多数の大学の案件が選ばれており、プラットフォームとして広がりを感じられた。また、GAP ファンド申請前に起業に向けた e-learning を受講するしくみは、効果的だったと考える。

採択案件の半数以上を占めるライフサイエンス分野を東北地域の強みとしているが、グローバル化を考える中で、地域課題を解決するスタートアップの創出も意識してほしい。加えて、研究者および支援・審査体制の中での女性参画に引き続き力を入れて行くことに期待する。

5-3 Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)

プラットフォーム名	Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)
主幹機関	広島大学 【総括責任者】 学長 越智 光夫 【プログラム代表者】 副学長(産学連携担当)大学院医系科学研究科 教授 田原 栄俊
共同機関	岡山大学、島根大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、香川大学、鳥取大学、広島市立大学、叡啓大学、県立広島大学、広島修道大学、安田女子大学、岡山理科大学、川崎医科大学、周南公立大学
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2023年 3月 31日

1. 活動概要 (PSI の中間報告書より引用)

中国・四国地域最大規模のスタートアップ支援ファンドである「PSI・GAP ファンドプログラム」を立ち上げ、公募・審査、課題支援等の運営についても中心になって進めた。

GAP ファンドプログラムの申請に向けて、学内研究シーズの掘り起こしを行った。各参画大学において、説明会、学内周知活動、起業に関心を持つ研究者に対する直接的なアプローチを行った。その結果として、参画大学(7 大学)より研究者 48 名が当該 GAP ファンドプログラムに応募し、そのうち 19 名が採択された。

GAP ファンドプログラムに採択された研究課題を次のステージに移行できるよう、必要に応じて VC 等をメンターとして配置した。

また、申請したものの採択に至らなかった研究者についても、VC 等とのメンタリングの機会を設定し、事業化に向けた悩みを解決できるように努めた。

2023 年 3 月 20 日に広島大学「きてみんさいラボ」を会場(ハイブリッド開催)として、2022 年度の GAP ファンドプログラム採択者による Demo Day を実施し、主幹機関である広島大学を中心に運営を行った。Demo Day には 63 名が参加した。広島大学を窓口として個別に面談を設定した。

2. 評価結果.

総合評価:A

3. 総合評価結果

審査体制や採択テーマの支援体制は整備されつつあり、丁寧に仕組みを立ち上げようとしている。また、領域を特性別に区分して、きめ細かな審査員の選定などを行うなど、効果的な採択システムを築いている点を高く評価する。

一方、当初想定申請数、目標採択数に届かなかった点は課題である。GAP ファンドセミナーを開催し、起業マインドを高める取り組みはしているものの、情報発信に加え事業化支援人材が主体となった案件の発掘・サポートの強化を期待したい。

5-4 Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)

プラットフォーム名	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)
主幹機関	九州大学 【総括責任者】 総長／学術研究・産学官連携本部 本部長 石橋 達朗 【プログラム代表者】 副理事／学術研究・産学官連携本部 本部長補佐・教授 大西 晋嗣 九州工業大学 【総括責任者】 学長 三谷 康範 【プログラム代表者】 理事／副学長 中藤 良久
共同機関	株式会社 FFG ベンチャービジネスパートナーズ、長崎大学、北九州市立大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、九州産業大学、久留米大学、第一薬科大学、福岡大学、福岡工業大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学学園
評価対象の活動期間	2022年 7月 1日～2023年 3月 31日

1. 活動概要 (PARKS の中間報告書より引用)

PARKS は、各大学の強みを生かし、九州・沖縄圏という地域にあるべき、かつ顧客志向で業界改変を実現可能、さらに台湾や東南アジアなど発展の著しいアジアと物理的距離の近い利点を生かし、アジアを足掛かりに世界展開していくスタートアップ創出を目指している。また、拠点都市である福岡市、北九州市、および九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一気通貫で実施し、PARKS インターユニバーシティ設立を目指し活動する。さらに、経営人材候補を学生やポスドクのみならず九州・沖縄への UIJ ターンを促進しながら確保する仕組みを構築する。それを踏まえ、補正予算では GAP ファンド(Step1 相当)15 件、GAP NEXT(Step2-1 相当)10 件、EIR プログラム(Step1 から Step2 まで一気通貫)2 件の計 27 件の採択・推進を行った。バイオ・創薬分野と一般分野の 2 つの領域に対して各フェーズにマッチするインキュベーションプログラムの提供、GAP NEXT プログラムについてはプレ CxO のマッチングサービスによる経営者候補の配置等を実施した。さらに、起業支援人材育成を目的としたプログラムも実施した。その結果、採択チーム 27 件の中から 2 社の起業と起業支援人材の 20 名以上の育成を実現している。

2. 評価結果

総合評価:A

3. 総合評価結果

GAP ファンドについて、発掘プログラムを実施し、各大学からの有望な案件が申請されている。審査体

制を整備した上で丁寧な審査を実施しており、採択された課題の質にも期待が持てる。また、採択された案件への支援については、実践的なインキュベーションプログラムを提供していることや、プレ CxO とのマッチングを効果的に進展させていることは評価できる。

一方で、採択の半数近くをバイオ・ライフサイエンス分野が占めているため、その他の分野でのシーズ発掘を進めるとともに、GAP ファンドへの申請数を増加に向けて、申請が少なかった大学に対するプラットフォームとしての支援策を検討してほしい。